地質ニュース567号，67頁，2001年11月
Chishitsu News no.567, p.67 , November, 2001

現代短歌の中の地球科学

～火成岩編～

黒雲母花崗斑岩のあひだを耕して甘柑の木を
育てゆくなり
宮　柊二「獨石馬」

この短歌は甘柑畑という一連にあります．おなじところに「蜜柑山に入植せしは漁師の寡婦，引揚者の末，紀州の二男三男坊」という歌があるので，おそらく紀伊半島南東部の熊野酸性岩体と呼ばれる場所を歌ったものと想像できます．現在の熊野川は，その花崗斑岩南岩体の中央部を切って流れています．普通の耕地には向かない土地で，岩と岩の隙間に蜜柑を植えている風景に，はじめに入植した人々の苦労を思っているのでしょう．花崗斑岩は花崗岩と同じ鉱物，化学組成を持つ斑状岩で，石英・長石および少量の黒雲母・角閃石などの斑晶と微花崗岩質石基からなる，とあります．

海蝕の粗面玄武岩あらあらと切り立ちて
裾を海波あらふ
宮　柊二「藤棚の下の小室」

これは隠岐を旅した一連の短歌です．隠岐諸島は島根半島に近い知夫里，西ノ島，中ノ島の3島を島前，遠方の島を島後といいます．島前の3つの島は1つの火山体の外輪山，3島に囲まれた海はカルデラになっています．カルデラ形成後の噴出物は，粗面岩，流紋岩，粗面玄武岩になっています．隠岐のマグマは，日本列島の下にもぐり込んでいる太平洋プレート上面の深さである400～500kmの深さで発生し，典型的な日本海アルカリ岩石区の火山岩の産地になっています．作者は波に洗われている熔岩を見ているのだと思いますが，短い形式の中に粗面玄武岩という名前をきっちり詠み込んだことが面白いと思います．

ひといろの黒き山にて熔岩に鉱物の
香のたつは寂しも
佐藤佐太郎「冬木」

これは昭和38年の作という詞書きがあります．同じ一連に「新しき噴火のあとはいさぎよき赤き岬が海にそばだつ」という短歌もあります．さて，昭和38年頃に噴火した火山を理科年表で見ると十勝岳(1962)，那須岳(1963)，浅間山(1961)，焼岳(1962)，三宅島(1962)，阿蘇山(1958)などがありますが，どこでしょう．また，どういうにおいを鉱物の香と思ったのでしょう．黒い熔岩の鉄分の匂いでしょうか．石の匂い，に着目したのは珍しいと思いました．

黒耀の石の釦をつまさぐりかたらふひまも
物をこそ思へ
北原白秋「桐の花」

黒曜石は，ガラス光沢のある流紋岩～デイサイト質のガラス質火山岩です．色は普通は暗黒または灰黒．日本では北海道十勝や長野県和田峠のものが有名です．石器時代には石器の材料として珍重されました．これは黒曜石の釦(ボタン)ですから，なかなかおしゃれです．

作者紹介
宮　柊二：大正元年新潟県生まれ．昭和61年没．
佐藤佐太郎：明治42年宮城県生まれ．昭和62年没．
北原白秋：明治18年福岡県生まれ．昭和17年没．

森尻理恵(産総研　地球科学情報研究部門　地球物理情報研究グループ)